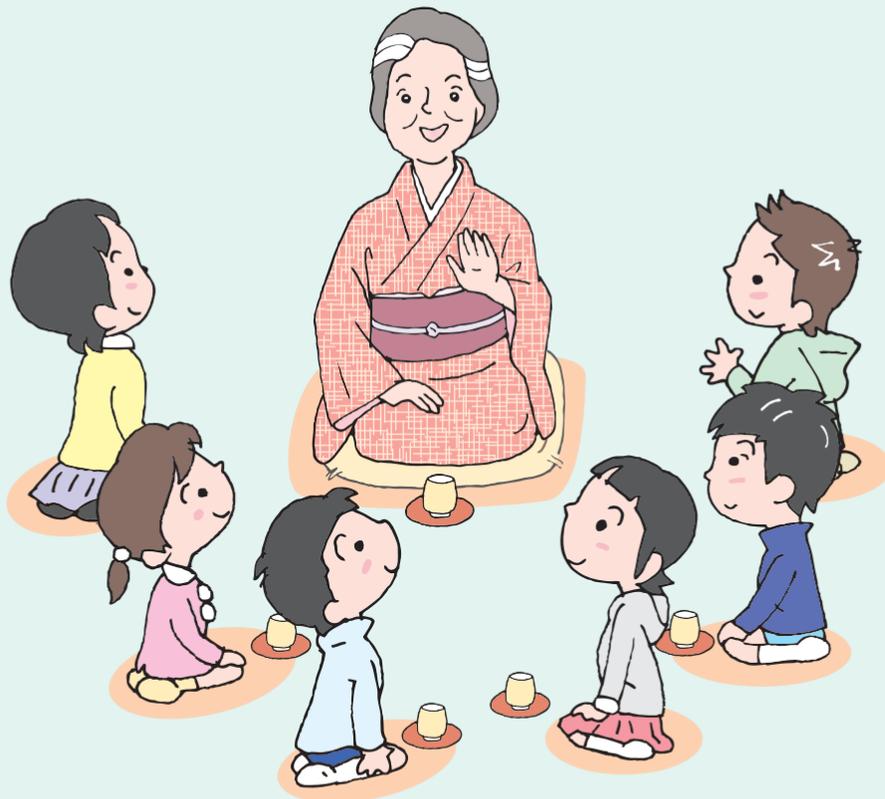


こだいら ちよつとむかし



あけましておめでとうございます。

今年は日本の伝統的なお祝い事を、タマおばあさんに語ってもらいました。

ひな祭り



三月三日は桃の節句だね。結婚して初めて迎える桃の節句には、お嫁さんは、実家に菱餅と はまぐりをもって、里帰りをしたんだよ。

そして、お嫁さんに女の子が生まれると、実家からおひな様が届いたの。お祝いは、ほかの親戚や仲人さんからも届いたんだよ。

ときには実家と親戚が話し合っ て、実家がお内裏様とおひな様を贈り、三人官女は親戚が、五人囃子はまた別の親戚が贈る、なんてこともあったね。

お祝いは日本人数が多かったね。藤娘や汐汲み、高砂なんかもあったよ。高砂はおじいさんが熊手、おばあさん

が箒を持つている人形で、長生きを願うおめでたいものなの。お祝いのお返しとして、菱餅とはまぐりを持っていくの。ひな人形は二月のうちに飾って、三月三日がすぎたら、すぐにしまったよ。昔は早くしまつと、早くお嫁に行けるといわれたね。人によっては、おひな様は火事除けの神様だから、毎年、十二日間飾ると火事にならないって、いったね。

昔は家で作っていたよ。赤と青(緑)と白の三色の餅をついて、ひし形に切って重ねるんだけど、ときどき色粉を入れたり、真つ赤や真つ青になってしまつこともあったよ。



端午の節句

五月五日は「端午の節句」で、子どもの成長を願って、家じゅうで、お祝いをしたんだよ。このあたりでは、男の子が生まれてはじめてのお節句を初節句といふの。

四月になると、お嫁さんの実家や仲人、親類などがお祝いを持ってきてくれる。お嫁さんの実家からは、大きな鯉のぼりや吹き流しが多かったね。

お祝いの返しは、柏餅とカサゴの干物を四月の末頃に持ってきたの。



タマおばあさんのお話は、いかがでしたか。感想をどうぞお寄せください。協力 小平民話の会 問合せ 秘書広報課 ☎042 (34) 9505

五月五日は「お嫁さんの節句」ともいってね、お嫁さんは柏餅をもって、里帰りをしたんだよ。夜には魔除けになるって、菖蒲湯に入つたの。

柏餅は20個から30個ぐらい重箱いっぱいにつめて、カサゴの干物は二枚重ねて、のし、水引をかけてね。つきあいの多い家は、あちこちからお返しを持っていったの。初節句の日は、朝から柏餅をたくさん作って、煮物もいろいろ作つたよ。煮物には八つ頭と筍は、かならず入れたの。八つ頭は人のかしらになるように、筍は親より伸びるようにと願ってね。

